

アナキズム／文学と思想

# イオム

スペインと、CNTと…

恨みと憐みをこめて

—ヒロヒト批判・2—

日野 善太郎

鍛冶屋・主義者・豆腐屋 第2回

—吉田一氏のガムシャラ人生—

荻原 晋太郎

N-ro 11

1976-5

アナキズム最高の理論紙の完全複製版  
「**黒色青年**」(黒色青年)  
「**黒色戦線**」(同盟機関紙)

(大正十五年より、昭和六年)

2,500円

アナキズム文芸思想誌  
昭和四年(創刊)「**黒色戦線**」  
(昭和五年誌名を「黒旗」と変更)

(史的文献の最高峰)  
全冊完全複製  
価五、〇〇〇円

群馬県伊勢崎市  
中町和田 〒372

鮮人アナキスト朴烈、金子ふみ子夫妻は、デッチ上げの大逆事件で死刑宣告、ふみ子は栃木刑務所独房で自殺した。  
金子ふみ子獄中手記(四六判増補 四六六頁)  
**何が私をこうさせたか**  
—増谷雄高跋—  
価 2,000円

**黒色戦線社**

「**差別とアナキズム**」  
—水平社運動とアナ・ボル抗争史—  
真実の部落解放とはなにか。今日まで知られなかったアナキズム水平運動の真相の発掘。文献豊富。(宮崎晃著) A5 一九二頁、一、六〇〇円

振替 宇都宮  
11015番

イオム 第11号 発行日=1976年5月30日 発行者=イオムの会／神戸市

葦合区熊内町1丁目5-3 編集=イオム編集委員会

¥ 250

## スペインとCNTと

— 海外機関紙より —

### サンディカ、復興するか？

(ソリダリテ・ウグリエ紙

76年1月号)

フランキズムに対するスペイン労働運動の主力は、CNTであった。人民戦線側において二百万以上が加盟するCNTの指導者たちの姿勢は、スペインにおける最も急進的部分であると評されてきた。ファシズムによって殺されたCNTの闘士たちは、長い間組織的に表面に現われなかった。市民戦争ではその存在を見なかったスペイン共産党は現在の政治路線の上に確固とした地位を得たのである。

このような状況に直面したCNTは、階級協力政治体制に反対するサンジカ組織を再建するために闘士グルー

プを組織した。われわれがここに提出する文書はバルセロナから発せられたものである。スペイン各地で、アナルコ・サンジカリストの闘士でない者たちも、労働者のための組織の再建を望んでいるからである。

### CNTから人民へ

労働者諸君！

ここに到来した事態は、一九三九年以来われわれを圧倒し続けてきた権力機構の清算にほかならない：フランキズム、その支配下でわれわれ労働者は、正に法の制限の中で異常な状態を続けさせられてきた。われわれの要求は、絶対的必要からなるか速い処に甘んじなければならなかった。

重く肩のしかかった戦後の苦しくも長い時を経て、いま六〇年という歳月は、一つの新しい希望をもたらし

てくれたようである。しかし、ブルジョワはフランキズム体制の中でその発展を考え、防衛のしやすい枠の中で労働階級が管理され、制約されることを望んでいるのだ。地下組織という罪状で家宅搜索され、逮捕され、闘士たちの血が流されなければ終らないという、われわれにとって実に逼迫した状況の年月を説明するに難くない。遂には労働者たちは実際の問題の解決を諦め、彼らの毎日の仕事の中に埋没してしまふのだった。CNTは、厳しい闘いの間、われわれの闘士を通してその強固な積み重ねを十分に知っている。だがもう一つの体制の下に同じ状況が続かせたいと願うだろうか。わが連合は、カバンの底にそして市民戦争の満期日に現状の延長を無理に押しこみ、そしてみんなのための、みんなの間に新しいレポートを作るべき時だと考えている。

CNTは完全解放を目指す革命手段を一度も放棄したことはなかった。そのために苛酷な弾圧を耐えて来たのだ。CNTは新しいレポートが必要であり、それが円滑に作られるだろうことを疑わない。その最初の恩恵に浴するのには労働者である。三六年に彼らのイニシヤチヴを確認したその労働者であるはずだ。

仕事場、工場、会社、労働者の存在するすべての場で直接民主主義を実施するのは労働者である。政策的に、

フランコ、市民戦争を通じて百万人を殺した。戦争の後も三十万人が銃殺された。彼らは武装を解かれた労働者と狼ぐつわをはめられた民衆だったのだ。さらに、バスクを足下に踏みじり、四十年間、スペインを闇と霧に包みこんだ。ジュリアス・グリモーが銃殺され、グラナド・デルガド、ビュイ・アンチチシュがガロツテにかけられた。思い出しても見よ、五人の闘士が銃殺されたのは、まだ二ヶ月前のことなのだ。そしてフランコは死んだのである。

フランコのいないスペイン、それは果して確かなのであろうか？

反対者を抹殺することによって築かれ、四十年の恐怖政治によって強固に作られた体制である。その張本人がマドリッドの病院で犬のように死んでいったからといって、それが崩壊すると考えてしまっているのだろうか？ ファン・カルロスが反フランキストかもしれない、というが、われわれはそのことについては何一つ知っていないということは？

民兵を含め、ファシズムに雇われたすべての軍隊は？ 残忍な殺人者であった彼らが、愚か者が単に戴冠式をしたというだけで、にわか立派な民主主義者になるといふのだろうか？

効果的に、現実的にそのレポートの基礎を完成させるのも労働者である。その中では本質的自由は制限されることなく承認されるであろう。自由こそが社会と階級組織の中に民主主義傾向の拡大を可能ならしめるものである。現状において労働者は、再び彼ら自身の方向と計画を彼らの手に握らなくてはならない。労働者の解放は労働者自身の仕事でなければならぬ。

一九七五年一月

バルセロナ・サンジカ地方連合

### アンチ・フランキスト集会（パリ、11/27） におけるCNTスペインの表明

（ル・コンバ・サンジカリスト紙

75年12月号）

フランコは死んだ。全世界の自由を愛する人々が長い間待ち望んでいた、そのことがついに起ったのである。独裁者、スペイン人民の殺し屋はもういない。だが、その男のために数知れぬ多くの人が死んでいったことを考える時、いたずらに喜んでばかりはいられない。

政治体制と軍事体制は、力づくでない限り崩れはしない。さしあたって遊んでいる暇はない。スペインは民主主義どころではないのだ。

しかし、確実にいえることは、あるいは明日か、いずれは近い将来においてスペインは民主主義に移行するであろうということである。

その可能性、その単純な偶発性が待たれる。われわれの中のどれ程の者が、自由に交信し合い、語り合い、行動することのできるバルセロナ、セビリア、あるいはマドリッドでの夜を迎えることを望まない者があるだろうか？ われわれの中のどれ程の者が、心地よく大いに語り合える絶対的自由をわずかでもスペインのために願うことを恥かしたり、当惑したりするものがあるだろうか？

革命を志す者は安楽に甘んじることができない。スペインの民主主義、そうだとも、そのとおり！ しかし、だれのために？ 何故に？ そこに当面の問題がある。

三年間の市民戦争と四十年に亘る独裁政治は偶然の産物であり、歴史の錯誤であると考えるのが自然であろう。フランコとフランキズムのおそるべき舞台背景には歴史の必然性というよりもむしろスペイン資本主義及び国際資本主義が存在している。

市民戦争、それは革命の波に対応した弱少で無能なスペイン資本主義の出現であり、その潰滅寸前に敗北から逃れるために外人傭兵の力を借りたスペイン資本主義の出現であった。市民戦争、それは六〇年後に再開されたパリ・コミューンでもあった。プロレタリア革命は前進をつづけた。ただ大砲のみがそれを阻止しえただった。

ファシズムの四十年間は？ それは幸いなことに、日々の事件はスペイン人民の革命的ウィールスを根絶やしにすることは徒勞であったことを証明した。だからわれわれはだまされはしない、一九三三年に世界の資本家は恐れおののいた。不干渉政策は偶然ではなかったのだ。スターリン主義に対し沈黙するためにも中立が必要だった。

今日、スペイン資本主義は貸借対照表を提示する。肯定と否定の評価である。四十年前、革命運動は強力であり、スペイン資本主義は弱少であった。今日ではスペイン資本主義は強固で侵略的である。これが肯定的評価である。一方、抑圧され、弱体化された革命は、運動は絶えることなくなおもとどまっている。これが否定的評価である。

権力側の報告を裏返えしてみると、スペイン資本主義

不自然なそんな同盟や階級の協力者に対しわれわれはそれは欺瞞行為であるといいたい。

ヨーロッパにおいて、さらに世界において自由社会があらゆる国の革命を志す者たちによって弾劾されるとき、そして人々が体制の破産と危機のことだけを語るとき、独裁四十年後のスペインに如何なる提案を見出すというのか。その腐敗した同じ自由社会に。

パリにおいて自由と民主主義の共和制体に対抗し、そしてマドリードにおいては正にそのためにありうるものは何か、それが理解されなければならぬ。

CNTが三六年〜三九年の革命事業を再開しようとする意図は、それらの矛盾に対してなのである。CNTはファシズム資本主義とスターリン共産主義の両者協力の攻撃によってその事業を挫折させられたのであった。

情況的、制限的な一切の協定を拒否し、階級の敵との妥協を拒み、闘争の場における労働者の現実的一致を計って、さらに肉体、頭脳労働者の直接行動によってCNTは、商業社会と賃金労働の廃止、人間による人間の搾取をなくし、階級なき社会の創造を提案するものである。体制のあらゆる抑圧機関の解体を要求し、それを獲得しよう。

今日、ジスカルはヨーロッパ市場及び政策にスベ

はまさにアメリカ資本と観光客が落す金、そして生活のためにフランスやドイツへ出稼ぎを余儀なくされているスペイン労働者の手形によってふくれたのである。この報告から一つの結論をひき出すのである。恐らくかつての政治体制、すなわち諸外国にスペインの印象を誤らせ、同時に商工業の開花を妨げ、ヨーロッパで最も暴力的挑戦的といわれた社会構造を、資本主義のために放棄するのは時間の問題である。要約すれば、資本主義は一九三六年に押し潰した民主主義を、一九七六年には加盟を希望している共同市場のために交換しようとしているのである。

われわれ、CNTとしては問題はごく単純である。ファシズムを媒介とした資本との闘いの後、こんどは民主主義を媒介としたそれと闘うまでである。より強い弾圧と更に多くの商的割譲。

しかし、だれもがわれわれと同じビジョンを抱いていない。数ヶ月前から同盟、協定、評議会といったものの出現が殖えている。あらゆる民主勢力、キリスト教民主主義、多かれ少なかれその罪を悔いたファランジスト、ブルジョワ、日和見主義、資本、銀行等が権力を熱望する見せかけ左翼と共に、是非とも権力をわが手にせんものと同じつながっている。

ンも加入させる意志のあることをマドリードに関する声明の中でいった。この表明は労働階級への挑戦に外ならない。その挑戦をわれわれはうけて立とう。資本を追い払うのだ。

資本と国家に対して今から強力な階級闘争をすすめて避けられない革命に備えよう。

## 「直接行動」創刊号

\* 私の非暴力

\* なぜWRIか

\* 自由連合論ノート ①

\* WRI日本からの呼びかけ

他

A 5・60頁 定価送共700円

発行 WRI日本部

大阪市阿倍野区旭町2-12-2

WRI・大阪